

令和 7 年度行政評価 《事業評価調書》

事業名		業務継続計画改定事業費		担当		総務部災害対策室			
事業概要		小樽市業務継続計画は、災害時の非常時優先業務等を特定し、災害時に迅速かつ的確な業務遂行を行うための計画であり、地域防災計画、強靱化計画を補完するものである。 (R7債務負担、R8 8,261千円)							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		0	千円	0.0	人	0	千円	0	千円
R7予算		0	千円	1.0	人	5,739	千円	5,739	千円
目標		災害時において行政機能を維持し、市民生活への影響を最小限にとどめること。							
実績・効果		令和3年度に「小樽市業務継続計画」を策定し、災害発生等の際に限られた職員や施設で、優先すべき業務をあらかじめ定めることにより、重要な行政サービスの継続の他、早期の復旧に効果がある。							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・市長公約に該当する事業である。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・持続性のある実施体制の構築が可能になる。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・国土強靱化に合致している。				
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			・災害時の業務改善に有効である。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】 本計画に基づき、いかに実効性を高めていくかが課題となっているため、今後も継続して実施していくことが必要。									

事業名 橋りょう長寿命化事業費			担当 建設部建設事業室建設課						
事業概要	老朽化が進んでいる市管理橋梁（136橋）について橋梁の保全等を計画的、持続的に進めるため、橋梁長寿命化修繕計画に基づき適切な修繕を行うことで、橋梁の長寿命化と維持管理コストの縮減を図り、将来にわたり安全・安心な道路網を確保するものである。								
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		46,765	千円	3.0	人	17,217	千円	63,982	千円
R7予算		176,418	千円	3.0	人	17,217	千円	193,635	千円
目標	修繕計画に基づき適切な修繕を行うことで、橋梁の長寿命化と維持管理コストの縮減を図り、将来にわたり安全・安心な道路網を確保する。								
実績・効果	令和 6 年度までに、1 2 橋を修繕完了。第 3 者被害の防止や安全で安心な交通の確保が図られている。								
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			地震等の自然災害に備え、緊急輸送道路などの、交通網の確保は必要不可欠であり、その対策として、橋梁の耐震化や老朽化対策を実施している。				
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			老朽化した橋梁は、今後、急速に増加することから、修繕計画に基づき維持管理コストの縮減を図りつつ、安全・安心な道路網を確保する必要がある。				
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			長寿命化修繕計画に基づき、予防保全を主とする維持管理を実施することにより、60年間で約158億円のコスト縮減を見込む。				
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い			国費（道路メンテナンス事業補助）を活用し、事業を行っている。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】 後年度も、小樽市橋梁長寿命化修繕計画（令和 6 年度更新）に基づき事業を実施していく。									

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 防災関係経費（管理経費（防災施設等管理費））		担当 総務部災害対策室	
事業概要		災害時に、市民等に伝達する手段である防災行政無線や防災情報通信設備（F Mおたる）等の保守点検にかかる経費。	
		事業費(A) 概算人工 人件費換算(B) トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	12,760 千円	2.0 人	11,478 千円 24,238 千円
R7予算	14,842 千円	2.0 人	11,478 千円 26,320 千円
目標		災害発生時の情報伝達手段の確保を図る。	
実績・効果		災害時の市民への伝達手段として、沿岸部に38基の防災行政無線（令和2年度）を整備し、市民等に迅速な情報伝達ができる他、ラジオ放送を活用した防災情報通信設備（令和3年度）等の整備により難聴地域（一部）を解消する等、有事の際の情報伝達手段として活用できる。	
点検・評価	点検項目	評価	評価の理由等
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	・情報の取得に関して市民ニーズがある。
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	・地域防災計画と合致している。
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	・国土強靱化に合致している。
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	・国の補助金を活用することができる。
評価の結果を踏まえた今後の方向性			継続
【今後の方向性の説明】 機器の整備、更新を継続し、市民への情報伝達手段を確保する。			

事業名 防災関係経費(防災訓練関係経費)		担当 総務部災害対策室	
事業概要		小樽市総合防災訓練や町会防災訓練について、防災関係機関等と協力し、平時から災害についての知識及び技能の向上を図り、災害時に迅速かつ円滑な対応力を身に付ける。	
		事業費(A) 概算人工 人件費換算(B) トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	211 千円	3.0 人	17,217 千円 17,428 千円
R7予算	239 千円	3.0 人	17,217 千円 17,456 千円
目標		町会等の訓練を通じて自助、共助を強化するとともに、防災関係機関等と連携し、公助の強化を図る。	
実績・効果		町会等が実施する防災教育は以下のとおり。 令和4年度12件 令和5年度17件 令和6年度30件 今年度も既に予約を含めると33件となっており、市民の防災意識の向上に寄与している。	
点検・評価	点検項目	評価	評価の理由等
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	・市長公約に該当する事業である。
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	・本市の地域性に特化した訓練であり、独自性がある。
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	・国土強靱化に合致している。 ・期待した効果が表れている。
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	・予算、人工などに対する実績・効果が妥当であり、効率的である。
評価の結果を踏まえた今後の方向性			継続
【今後の方向性の説明】 自助・共助を高めるためには、今後も必要な取組であり、町会、防災関係機関等と更なる連携の強化に取り組む必要がある。			

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名		防災関係経費（避難支援事業）		担当		総務部災害対策室			
事業概要		ハザードマップや防災マップなどを市民に配布し、災害への備えと防災意識の向上を図るとともに、避難行動要支援者名簿及び個別避難計画を作成し、避難支援体制を整備する経費。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		7,131	千円	2.0	人	11,478	千円	18,609	千円
R7予算		500	千円	2.0	人	11,478	千円	11,978	千円
目標		平時から自助や共助の意識を高めることで、災害時の迅速かつ的確な避難行動等に繋がるための支援を図る。							
実績・効果		令和6年度に防災マップ（10万部）を作成し、市民周知を行っており、事前に避難経路などを市民にお知らせすることにより、円滑かつ安全な避難の確保に繋がる。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・市長公約に該当する事業である。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・災害対策基本法で市民周知が求められている。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・国土強靱化に合致している。 ・期待した効果が表れている。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・道の補助金を活用することができる。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						拡大			
【今後の方向性の説明】 市民の避難行動に繋げるためには、自主防災組織の組織率の向上への取組や、資格の取得（防災士養成）や、個別避難計画の作成など、事業を拡大することが必要である。									

事業名			担当					
事業概要								
事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	千円	人	千円	0	千円			
R7予算	千円	人	千円	0	千円			
目標								
実績・効果								
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等				
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い						
評価の結果を踏まえた今後の方向性								
【今後の方向性の説明】								